

音楽科学習指導案

令和3年1月20日(水)

第1学年1組(第1音楽室)

指導者 稲森 稚明
佐藤 真一

【題材】みんなで おとを あわせよう (『ラデツキー行進曲』『こいぬのマーチ』)

考察	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
育成を目指す資質能力	<ul style="list-style-type: none"> 音を合わせて演奏することのよさに気付く力 拍を意識して音を合わせて演奏する技能 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の楽器の音を聴きながら音を合わせて演奏したいという思いをもつ力 音を合わせた演奏の楽しさを感じ取りながら聴く力 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と楽器の音を合わせて演奏したり, 音を合わせた演奏を聴いたりすることに楽しんで取り組もうとする態度
児童の実態	<ul style="list-style-type: none"> キーボードの音色と曲の様子との関わりについて気付き, 伴奏を聴きながら音を合わせて演奏できるようになってきている。 様々な楽器の音を合わせて演奏することのよさに気付いたり, 拍を意識して互いの音を合わせて演奏したりすることは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲の様子に合わせてキーボードの音色を工夫して演奏したり, 曲の様子を想像しながら聴いたりしてきている。 拍を意識してキーボードや簡易打楽器を演奏したり, それぞれの音を合わせて演奏したりするには至っていない。また, 曲のイメージと音を合わせた演奏との関係に気付き, 楽しさを感じ取りながら聴いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲の様子を思い浮かべながら, 楽しくキーボードを演奏したり, 聴いたりすることに取り組んできている。 音を合わせて演奏することに関心を持ち, 互いの音を聴きながら音を合わせて楽しく演奏したり, 音を合わせた演奏を楽しく聴いたりすることは難しい。
価値	<ul style="list-style-type: none"> キーボードの他に, 簡易打楽器を用いた演奏をすることは, 複数の楽器の音を合わせて演奏する方法について理解することができる。 キーボード, タンブリン, カスタネット, 鈴, トライアングルと複数の楽器を用いて音を合わせて演奏することは, 互いの音を聴く必要感を生み, 音を合わせて演奏する技能を身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 四分音符と四分休符のリズムでできている曲のため, 音を合わせやすく, 友達の音を聴きながら音を合わせて演奏したいという思いをもてる。 『ラデツキー行進曲』は, 拍を意識して手拍子や行進をすることができる曲のため, 拍を意識しながら音を合わせて演奏する楽しさを感じ取り, 音を合わせた演奏のよさを味わいながら聴ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の興味のもちやすい簡易打楽器を用いることや, 簡単な旋律を演奏することで, 複数種類の楽器の音を合わせながら, 楽しく演奏することができる。 友達と音を合わせて演奏する楽しさや喜びを実感することは, 今後, 音を合わせて表現することや, 音を合わせた演奏を聴くことにつながる。
見方・考え方	音楽に対する感性を働かせ, 音や音楽を, 拍やその働きの視点で捉え, イメージや感情とつなげて考えること		
今後の学習	2年「はくのまとまりをかんじとろう」で, 2拍子や3拍子を感じ取りながら声を合わせて歌う学習に発展していく。		

指導と評価の計画

目標	拍を意識しながら、友達と楽器の音を合わせて楽しく合奏をする。				
評価 規準	(①知・技) 音を合わせて演奏することのよさに気付き、拍を意識しながら音を合わせて演奏している。 (②思・判・表) 友達の楽器の音を聴きながら音を合わせて演奏したいという思いをもったり、音を合わせた演奏の楽しさを感じ取りながら聴いたりしている。 (③主体的態度) 友達と楽器の音を合わせて演奏したり、音を合わせた演奏を聴いたりすることに楽しんで取り組もうとしている。				
教材	ア…【鑑】ラデツキー行進曲 ヨハンシュトラウス(父)作曲 ニ長調 4分の2拍子 イ…こいぬのマーチ 久野静夫作詞 外国曲 ハ長調 4分の4拍子				
過程	時間	配分	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ 追求する	1	ア	○『ラデツキー行進曲』を聴いたり、『こいぬのマーチ』を歌ったりしながら「友達と音を合わせて演奏しよう」という学習のめあてをつかむ。	○様々な楽器が音を合わせて演奏していることに気付けるように、楽器に合わせて手拍子をしながら聴く機会を設定する。	◇様々な楽器が音を合わせて演奏していることよさについて発言したり、記述したりしている。 <発言・記述②>
	1	イ	○『こいぬのマーチ』を歌詞や階名で歌ったり、キーボードで演奏したりする。	○音が合ったときの曲のイメージを思い浮かべることができるように、全ての楽器を使った範奏を聴く機会を設定する。	◇『こいぬのマーチ』を音を合わせて演奏することについて思いをもち、発言したり記述したりしている。 <発言・記述②>
	1		○『こいぬのマーチ』をキーボードで演奏する。	○拍を意識すると音を合わせて演奏できることに気付けるように、自由に演奏したときと拍を意識して演奏したときの演奏を比較する機会を設定する。	◇拍を意識してキーボードを演奏したいという思いをもって、発言している。 <発言②>
	1		○『こいぬのマーチ』をキーボードや簡易打楽器で演奏する。	○拍を意識して演奏できるように、演奏の際に基準となる拍を示した動画を用意する。	◇拍を意識してキーボードや簡易打楽器を演奏している。 <表現①>
	1		○『こいぬのマーチ』を、鍵盤ハーモニカと簡易打楽器で演奏しながら、音を合わせる方法を話し合う。(本時)	○友達と楽器の音を合わせる方法に気付けるように、自分たちの合奏を動画や音声で振り返る際に「友達と音が合っているか」という視点を提示する。	◇友達と音を合わせて演奏する方法を発言したり、表したりしている。 <発言・行動②>
1		○『こいぬのマーチ』を鍵盤ハーモニカと簡易打楽器で音を合わせて演奏する。	○友達の音を意識できるように、音の重なる部分や重ならない部分を色分けした拡大譜を見ながら演奏する機会を設定する。	◇友達と音を合わせて演奏している。 <表現①>	
・ま 生と かめ する	1		○『こいぬのマーチ』のまとめの合奏をする。	○友達と音を合わせて演奏できるようになったことを実感できるように、演奏を保護者や同学年の友達へ向けて発表する機会を設定する。	◇友達の楽器の音を聴きながら、演奏の仕方を工夫して、楽しく楽器を演奏している。 <表現①②③>

本時の学習（5／7時間目）

ねらい 動画や音声で自他の演奏を振り返り、「友達と音が合っているか」という視点を基に、音を合わせて演奏するための方法を話し合うことを通して、音を合わせて演奏しようという思いをもって演奏することができる。

評価項目 友達と音を合わせて演奏する方法を発言したり、表したりしている。<発言・行動②>

学習活動と児童の意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの音がバラバラで、かわいい子犬がよちよち歩いたり、くんくん鳴いている様子が表せていないな。もっと、キーボードや打楽器の音を合わせて演奏したいな。 (目的意識) </div> <p>めあて：みんなで音を合わせて演奏する方法を考えよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○複数の楽器の音を合わせて演奏したときの曲の雰囲気を感じ取れるように、全員で音を合わせて演奏するよう促す。 ○複数の楽器の音を合わせて演奏する方法を考えるとこの本時の見通しをもてるように、それぞれの楽器の音を合わせて演奏して、気付いたことを問いかける。
<p>2 音を合わせて演奏する方法を話し合いながら、合奏をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは、同じカスタネットの友達ときれいに音が合うといいな。カスタネットだけで演奏して、動画で確かめてみよう。 ・録画をしたカスタネットの動画を確認したら、最初は音が合っているけれど、後半は音がずれていることが分かったよ。もっと拍に気を付けて演奏するといいいのではないかな。 ・カスタネットの友達とは音が合ってきたから、今度は全員で音を合わせてみたい。音が合っているか録音して確かめてみたい。 ・最初の演奏より音が合ってきたと思うけど、少し音がずれているところがあった気がしたよ。友達が、キーボードの音を聴くとよいとアドバイスをしてくれたよ。 ・キーボードを聴きながら演奏してみたら、音が合わせられた気がするよ。もう一度録音して確かめてみよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・拍に合わせて演奏したり、友達の音を聴いて確かめたりしたら、友達と音を合わせて演奏できるようになってきたよ。(目的を達成した意識) </div> <p>3 本時の学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初の演奏と比べて、友達と音を合わせて演奏できるようになってきたよ。次は、かわいい子犬の様子を表せるように、もっときれいに音を合わせて演奏したいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ楽器同士で音を合わせて演奏できていることを判断できるように、同じ楽器で音を合わせて演奏している様子を動画で撮影し、観るよう促す。 ○同じ楽器同士で音を合わせて演奏する方法を考えるとこの本時の見通しをもてるように、「音が合っているか」の視点を基に、動画を観て気付いたことと音を合わせて演奏するための方法を問いかける。 ○拍を意識して演奏することができるように、拍を示す動画に音を合わせながら演奏するよう促す。 ○全員で音を合わせて演奏できていることを判断できるように、録音した全員で演奏している音声を聴き、気付いたことを問いかける。 ○全員で音を合わせるために大切な奏法に気付けるように、演奏を聴いて気付いた音を合わせて演奏する方法を整理して板書する。 ○イメージに合った音を合わせて演奏する方法を考えられるように、板書した音を合わせて演奏する方法を基に、イメージを思い浮かべながら繰り返し演奏を試行するよう促す。 ○自分たちができるようになった音を合わせて演奏する方法を自覚できるように、試行しながら考えた音を合わせて演奏する方法をペアで伝え合うよう促す。 ○拍に合わせたり友達の音を聴いたりしたことで音を合わせて演奏できるようになったことを実感できるように、最初と最後の音声を聴き比べ、音を合わせて演奏できるようになったことを称賛する。

授業の振り返り

※授業の様子は、本校HPでも紹介しています。
【教育研究→令和2年度提案・部内授業の様子】

機器	タブレット（グループに1台）、大型モニター
使用アプリ	ロイロノート・ボイスメモ
機能等	録画・録音（自覚、比較）

○実際の授業の流れと児童の様子

【導入】 本時の導入において、児童は、前時までの学習を基に『こいぬのマーチ』を子犬がよちよち歩いたりじゃれたりしているイメージを合奏で表現できるように、音を合わせて演奏したいという思いを振り返った。そして、全体で音を合わせて演奏し、録音した音源を聴き、まだ音がきちんと合っており、目指している合奏には至っていないことに気付いた。そこで、「イメージを表現するために音を合わせて演奏する方法を考える」という目的意識を明確にした。

【展開】 同じ楽器のグループに分かれて音を合わせて演奏するための方法を、演奏しながら考え始めた。「リズムをしっかりと覚えるとよい」「頭の中で歌を歌うとよい」など、音を合わせるための方法を伝えることと、試して演奏することを繰り返していった。そして、音が合ったと感じたグループから、演奏の様子を録画した。児童は、録画した動画を見て、

「音が合っているか」の視点を基に振り返った。そして、自分たちの演奏の音が合っているところと、少しずれているところについて気付いたことを共有した。そして、ずれているところも音を合わせて演奏できるように、楽器を休符でしっかりと一拍おいて叩く叩き方や、最初の息の合わせ方について意見を出し合いながら、繰り返し試行していた。この姿は、自分たちの奏法や音を振り返るために撮影した動画を基に、自分たちの音や動きを捉えられたことで、自分たちの演奏の達成度や、工夫するとよいことに



<グループごとに撮影する様子>

ついて考えられた姿であると考えられる。一方で、教師が撮影を担当すると、一班ずつしか撮影できないため、動画を撮影するまでに時間がかかり、自分たちの演奏を振り返って試行する時間を十分に取れずに、音楽表現の工夫を考えられないグループも見られた。

グループごとに振り返り、試行した後に、全体で合奏を行った。児童は録音を聴きながら、「もっとゆっくり演奏するとよいと思う」「拍を合わせるとよいと思う」といった意見を伝え、試行し、それを録音して聴く活動を繰り返した。また、最初に録音した演奏との比較も行った。そして、ゆっくりにしたときや、手拍子に合わせて演奏したときに音が合っていることに気付いた。これは、複数の録音を比較したり、部分的に抽出して聴いたりしたことで、自分たちの演奏の変容や達成度に気付いた姿であると考えられる。

そして最初の演奏よりも、音を合わせて演奏できるようになったことを実感し、感じたことを伝え合っていた。

【終末】 児童は子犬がよちよち歩いたりじゃれたりしているイメージを表現するために音を合わせて演奏する方法として、「リズムを覚えて、頭の中で歌うこと」や「拍に合わせて演奏すること」が大切であると、自分の言葉で振り返った。そして、次時では、さらにイメージに近づく演奏ができるようにしたいという思いをもった。

○授業改善に向けて

- ・1時間の中で試行することと自分たちの演奏を振り返ることを何度も繰り返す時間を十分に取り、自らの音楽表現の工夫を考えられるようにするためには、複数箇所でも撮影したり、児童自身で録音や鑑賞したりできる環境の設定が必要である。



<撮影した動画を振り返る様子>



<録音した合奏を聴く様子>